

平成 30 事業年度
事 業 計 画
(平成 30 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日まで)

1. はじめに

中央競馬の動向をみると、発売金が平成 24 年からは 5 年連続で前年を上回り、平成 29 年度についても堅調に推移しております。しかし、少子高齢化や人口減少の進展、社会環境の変化等、中央競馬を取り巻く環境は依然として楽観視できない状況であると思われます。

また、社会福祉の分野においては、少子高齢化の下、国民の社会福祉へのニーズは益々増大し、かつ、多様化しており、民間の福祉力の更なる向上が求められております。

こうした中で、当財団は、公益財団法人として将来にわたり事業を安定的に進めていくため、コンプライアンスを遵守し、事業の公平性、透明性に引き続き十分配慮しつつ、平成 30 事業年度は以下のとおり取り組みます。

2. 平成 30 事業年度の取組

(1) 社会福祉事業に対し施設整備等の助成を行う事業

民間社会福祉施設における環境の整備・充実に資するため、関連規程に則り、また事業へのニーズに柔軟に対応しうるよう引き続き適正かつ効果的な助成事業の実施に努めます。

(2) 社会福祉事業関係者の研修事業に対し助成を行う事業

今後の社会福祉事業における中核を担う人材の育成に資するため、民間社会福祉施設で働く職員を対象とした海外研修活動及び国内研修活動に対し、引き続き効果的な助成事業の実施に努めます。

(3) 中央競馬関係者の福利厚生の向上のための事業

関連規程に則り、事務手続を着実に実施し、引き続き福祉手当の適正な支給を行います。

(4) 管理業務

超低金利状況の下、基本財産等の運用益が低水準にあることを踏まえ、予算の効率的な執行に努めながら、管理業務を円滑に実施します。